

# 新・東の風

令和6年度  
12月号

早いもので、来週からの登校は12月になります。12月といえば「師走（しわす）」と呼ばれています。旧暦の呼び方ですが、知っていましたか。

「師走」の由来は複数ありますが、僧侶のような普段落ちついている人でも、この月は多忙で走り回るようになるという意味から名付けられたという説があります。しかし、校長の考えはこうです。師が走る、師とは教師。学校の先生の仕事において12月は、2学期の成績をつけたり、懇談会を設けたり、3年生は進路の最終準備に取りかかったりと、走るように忙しい、「師走」の由来の一つだと思います。

さて本校では夜間学級が併設されています、大阪市立中学校130校で夜間学級があるのは、東生野中・天満中（北区）・心和中（浪速区）の3校だけです。夜間学級とはいったい何か。

2020年の国勢調査によって、全国に少なくとも90万人の義務教育未修了者が存在し、基本的人権にかかわる大きな課題が明らかになりました。2021年衆議院予算委員会で「5年以内に全国の都道府県・政令市に少なくとも1校の夜間中学を作ることを目標にする」と政府の方針が表明された結果、2024年4月時点で政令都市を含む31都道府県に53校もの夜間学校が設置されるに至っています。しかし、未設置の地域はまだまだあり、夜間中学に通える地域は限定的です。

私はこの4月から、全国夜間中学校研究会の会長をしています。立場上いろんな場所に出向き、夜間学級への理解・援助に努めています。12月5、6日は東京で「第70回全国夜間中学校研究大会」を開催します。本校夜間学級からも2名の生徒さんが参加されます。

夜間学級では、新たな課題も増えてきました。外国人の生徒さんの増加です。この春に開設された大阪府泉佐野市立佐野中学校の開級式・入学式に参列してきました。41名の生徒さんが入学され、笑顔でいっぱいでした。学校が関西国際空港からの橋を渡ったところにある関係か90%が外国の方でした。国籍も様々と感じました。本校におきましてもこれまでの外国人は、韓国・朝鮮人の方がほとんどでしたが、中国やネパール、フィリピン、ドミニカ共和国の生徒が加わり、様変わりしてきました。

近年の夜間学校は中学校未卒業者のみならず、不登校で十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方や、本国で義務教育を受けていない外国籍の方などの義務教育を受ける権利を実質的に保証する役割も担っています。

本校では毎年1年生が3学期に夜間学級と交流をしています。「ふれあい教育」と名付け、夜間学級の先生から様子を紹介され、希望者は実際に夜間学級の授業を体験し、最後は夜間学級生徒会の皆さんに感想を述べます。この交流の取り組みは同じ東生野中学校の生徒として昼間の生徒にとっても勉強に対する思いや姿勢、そしてこれから生きていく上で情操感情の醸成に大変意義深いものであると思います。

大阪市立東生野中学校長 川田 浩二